# 素化合物PFASについて

修 (みどり21

蓄積性を持ち、生態系や健康に悪 ることが懸念されています。生物 れると分解が著しく難しく、地下 なります。また、環境中に放出さ の総称でPFASは広範な総称と 分解されにくい有機フッ素化合物 影響を及ぼす可能性があるとされ 水や水源、土壌、食品などに広が 永遠の化学物質。非常に強固で

## ことであったのか。 地点に指定された経緯はどういう 令和2年度に菊川市内が調査

選定されました。 の中から、調査を了承した本市が 程度が候補地として抽出され、そ る施設等を条件に、県内の20か所 ては、フッ素化合物を使用してい 本市が対象とされた背景としまし 国が実施した調査において、

と思っております。

PFASを使用した可能性があっ 大であり、過去に菊川市において 質の調査点に指定された事実は重 た業種と当時の状況を把握してい 県内で菊川市のみが要監視物

### ますか。

把握しておりません。 PFASの排出源となり得る施設 する可能性があった業種につきま と言われていますが、 造・使用の実績がある施設などが しては、有機フッ素化合物の製 PFASを製造過程で使用 具体的には

**(** ングでお知らせすることが必要だ 市民に正しい情報を正しいタイミ 等に注視するのが基本の考えで、 です。菊川は大丈夫ですよという。 引き続き県や国からの情報 ぜひとも周知を行ってほしい



## は。 が長期化する子どもの傾向と対策 **(** 不登校の要因分析及び不登校

る。 居場所への支援を継続しつつ、家 庭訪問などの個別の対応をしてい ケース会議の実施や相談支援、家 る。関係機関との連携により、 庭支援へのアプローチが必要であ 抱える不安に寄り添う相談支援や 徒の割合が多い。児童生徒自身が 不安の傾向が見られる児童牛

### **(P)** 響について、現状と考えは。 イルス対策による不登校増加の影 一斉休校や黙食等、コロナウ

どによる間接的なものになったり したことなどが考えられる。 が断続的になったりICT機器な 構築が不十分となったこと、学び ケーションが取れず、人間関係の 大きく増加した。十分なコミュニ 徒数は18人、R3年度は50人と、 R2年度の新規不登校児童牛

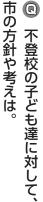
感じる保護者、子どもの声を基に、 学校に相談することに抵抗を

## **个登校児童生徒の支援**

有紀 (みどり21

## 民間施設の情報提供が推奨されて いるが現状は。

る民間6施設と静岡県総合教育セ るが、それ以外に連携を図ってい ンターあすなろを紹介している。 まずは適応指導教室を紹介す



ても勉強する機会は必ずある。つ らくなってしまうが、将来必ず らい思いしているときは本当につ しないという考え。いくつになっ 登校という結果のみを目標と

